〔下學集上氣形〕蝗食麥蟲也

〔東雅二十蟲多〕蝗オホネムシ　倭名鈔に爾雅集注を引て、○中略オホとは其容の大なるをや云ぬらむ、又其類の衆をや云ひぬらむ、ネムシはイネムシ也、米稻を害するを云ひし也、

〔倭訓栞中編伊二〕いなむし　稻虫の義、螟螣蟊賊の類をすべていへり、明律に蝗蝻爲害、旁注に、飛者曰蝗、走者曰蝻と見えたり、○中略八月比のいなむしといふも、稻蒸の義、溽蒸の秋暑をいへり、

〔和漢三才圖會五十三化生蟲〕蝗音黄　和名於保禰無之

本綱、蝗亦螽類、大而方首、首有王字、沴氣所生、蔽天飛、性畏金聲、一生八十一子、其子未有翅者名蝻、一名蝝音延、不因牝牡、腹中陶冶而自生、故曰蝝蝻、○中略

按蝗之屬甚多、而首有王字者甚希也、蓋蝗害苗者未有之、如爲害則災也、但六七月霖雨不晴、雖霽冷則生蟲、大如蚘蠕綿蟲屬而微黑食苗心、所謂螟者是乎、

〔除蝗錄〕蝗の種類

貝原翁の大和本草に、螟、螣、蟊、賊の四生を蝗といふ、イナゴの類なりとあれども、稻に付虫は數生ありと見ゆ、○中略

螟　蟲蟊の集解を以見れば、イナゴなり、心を食ふとあれ共、イナゴの稻を害するは、心のみに非ず、葉も莖もくらへども、其害は却てすくなき歟と覺ゆ、

螣　俗にいふ、實盛虫也、莖葉の氣を吸て、害をなす也、防かたは、松明にてやきとり、又油にて除べし、

蟊　殼虫といふ、是蟊なるべし、是は能くできたる稻に生ずる事多し、此虫の付たるは、出穗の已前、くされたる苗をぬいて、是を見るに、根の間に白きはだか虫あり、則是なり、故に度々油を入除べし、然して稻葉の新に出かゝりたる時、ぬいて見るに、白き根生じて、右のはだか虫は見えず、○中